

令和8年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程学習指導	生徒が自ら課題を発見し解決する探究力を身に付けながら、進路希望実現に向けた力も身に付けられる授業改善を実施する。  これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動を充実させる。	①組織的な授業改善テーマ「教科等横断的な視点を活かした授業実践」について全教科で研究を行う。 ②高校及び大学の一貫した学びの仕組みである高大接続教育課程開発を引き続き行う。 ③SS 課題探究・理数探究において外部資源を活用し、生徒の探究力を育成する。	①授業研究月間を設定し、相互に授業を参観し、また公開研究授業を実施して改善を進める。 ②理数探究及び本年度より開講のSS物理・SS化学・SS生物について、高大連携を密にして高大の学びの連続性を重視した授業開発を行う。 ③大学研究室による通年指導、TA派遣、県相人材バンク等を活用する。	①生徒による授業評価の結果。 ②高大接続教育課程協議の進捗状況。 ③大学研究室による通年指導回数、TA派遣人数、県相人材バンク登録人数及び活用回数。
2	生徒指導・支援	校訓「礼節・信義・根性」、モットー「文武両道・切磋琢磨」を基盤とする高い次元での教育活動の展開を通し、獲得した知識・技能を活用し、多様な人々と協働的に活動し、リーダーとして社会に関わろうとする人材を育成する。	①学校行事・部活動を通して生徒の責任感・社会性を育むとともに、目標に向かって粘り強く取り組む資質を育成する。 ②安心安全に充実した学校生活を送れるようルールやマナーを互いに考え、教育相談体制を充実させる。困り感を持つ生徒の早期発見・対応にあたる。	①生徒たちが主体的に学校行事や部活動を行い、生徒自らが粘り強く課題発見・課題解決できるサポート体制を整える。 ②事後の指導だけではなく事前の支援に重点を置く。教育相談コーディネーターが中心となってSC・SSW、保護者とも連携して困り感を持つ生徒の支援・指導にあたる。	①学校行事・部活動が主体的に実施できたか、アンケートを実施する。 ①部活動の加入率及び活動内容。 ②コア会議、ケース会議等を通して職員間の情報共有。困り感を持つ生徒の改善状況。 ②担任との面談時間の確保状況。
3	進路指導・支援	将来の自らの姿を意識した、大学やその後につながる学びの継続性と、社会で求められる資質・能力が身につくキャリアプラン作りを指導し、主体的で、継続的・計画的に粘り強く物事に取り組む力を育成する。	①校外の研究成果発表会、科学の甲子園、科学オリンピックや学会発表等への参加者を増やす。 ②進路実現に向けて継続的・計画的に粘り強く取り組み、2年生から3年生への移行期の勾配を滑らかにすることで、生徒をサポートする体制を充実させる。 ②生徒の進学に対する意識を高め、学力向上につなげる。	①先輩の参加実績等を示しながら意欲のある生徒を中心に参加するよう促すとともに、事前指導を充実させる。 ②模試、高大連携講座、面談等を効果的に配置し、進路通信等で随時情報を提供するとともに、新たな指標導入を検討する。 ②県相人材バンクの活用をさらに進め、卒業生による講演を発展させるとともに、卒業生をメンターとして活用したりする企画を充実させる。	①校外の研究成果発表会、科学の甲子園、科学オリンピックや学会発表等の参加生徒数及び結果。 ②キャリアプランの作成状況、新たな指標導入に向けた検討状況。 ②卒業生による講演の実施状況、卒業生によるメンターの活用状況。
4	地域等との協働	地域から期待されるニーズを理解し、教育活動を地域と連携しながら実施し、学校外の多様な人々と協働的に活動する機会を通じて豊かな人間性や社会性を涵養し、社会に貢献できるリーダーを育成する。	①本校の特色や取組を積極的に発信し、本校の魅力を地域や中学生及びその保護者に理解してもらう。 ②地域行事参加や福祉施設訪問等、学校外の多様な人々と協働的に活動する機会を設定し、豊かな人間性や社会性を涵養する機会を作る。	①学校案内の構成を見直すとともにホームページをこまめに更新する。 ①生徒有志も運営に加え、中学生やその保護者等に対し魅力がある学校説明会を企画、開催し、効果的な広報活動を行う。 ②ボランティア活動の大切さを生徒に理解させるとともに、学校運営協議会制度を活用して、学校外において生徒が豊かな人間性や社会性を涵養する機会を増やしていく。	①学校案内の構成見直し状況。ホームページの更新状況。 ①学校説明会の実施状況および参加人数及び学校説明会参加者アンケートの内容。 ②学校外における多様な人々と協働的に活動する機会の回数及び参加生徒数。
5	学校管理学校運営	生徒の多様な活動を引き出しつつ、安全安心に生活するための学習環境整備や、生徒と向き合う時間の確保や事故の未然防止のための働き方改革に向けた、組織的で機動的な学校運営を進める。	①生徒が安全安心に生活するための学習環境整備を進めるとともに、非常時の安全確保について体制を整える。 ②教員の働き方改革を推進し、教員が生徒と向き合う時間を確保し、生徒の困り感解消に努め、生徒の事故を未然に防ぐ。	①危機管理マニュアルを整備し、職員に周知・共有する。 ①具体的に災害を想定して、効果的な防災訓練を企画し実施する。また非常時における共助の重要性を指導する。 ②管理職が主体となって、校務の無駄を洗い出して見直すとともに、共有サーバのデータ整理を進める。	①危機管理マニュアルの整備・共有状況。 ①防災訓練の実施方法の工夫内容及び回数。 ②校務の改善状況、ICTを活用した業務の効率化の達成状況。